医療薬学研究科

(医療薬学専攻)

シラバス

Syllabus 2024



あなたの学びを あなたのカタチに

九州医療科学大学 Kyushu University of Medical Science

			T	T	22 21 30	- 22/11
	科目名	東洋医薬学特論	授業コード	220019BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学	年) 医療薬学研究科(1·2·3 年)	ナンバリング	/	AL 科目	0
	担当者	大塚 功(薬·薬)、渥美 聡孝(薬・ 薬) 開講学期 2024 年度前期	必修·選択	選択	受業形態 講	義、実習、SGD
	きの概要・・ デ・対応す リシーNo.	るホ。 こで個々の生薬や漢方処方の品質を予測、評価そして判断できる能力; 天然物の品質に基づき、個々の患者におけるそれらの薬効を予測、評価では、漢方処方に含まれる各生薬の基本的性質、各生薬の品質に係る知識をふまえ臨床の場での効果や副作用を予測、評価し、適切な投薬;	日本では、伝統 「現在の医療現り が求められる。ま 面そして判断でき 要素、他生薬や 去を判断できる自	性医療である東洋 場において重要な また、生薬や漢方を る能力は重要で 他治療薬との相2	医薬学がこの。 :役割を担って「 処方の成分に。 ある。東洋医薬 豆関係を学び、	ような必 いる。そ 含まれる 薬学特論
	学修目標	1) 代表的な漢方処方について、それぞれに含まれる生薬とその薬効を 2)生薬の品質を決定する要因を挙げ、品質に及ぼす影響を説明できる。 3)自然界から得られる天然医薬品の有用性について説明できる。 4) 代替補完医療としての漢方の役割と、他の医療との関連性を概要で				
	務経験のる 員による教					
	評価方法	レポートおよびロ頭発表を総合的に評価する。				
	準備学習 多上の注意					
オ	フィスアワ	閲時。アポイントメントをとること。 - 通常は薬学棟(4 号棟)6 階生薬学講座に在室している。				
授業	計画					
回数	学修 目標 No.	授 業 内 容			授業 方法	担当
1	1), 2), 3), 4)	代表的な漢方処方と含まれる生薬、天然物を分類し、理解する。			講義	大 塚
2	2), 3)	薬用植物の薬効成分を調べ理解する。-1			講義·演習	大 塚
3	2), 3)	薬用植物の薬効成分を調べ理解する。-2			講義·演習	大 塚
4	2), 3)	自然界に存在する天然医薬品について調べ、討議する。−1			講義·演習	大 塚
5	2), 3)	自然界に存在する天然医薬品について調べ、討議する。-2			講義·演習	大 塚
6	2), 3)	生薬・天然物に関する最新の研究について調べ、討議する。-1			講義∙演習	大 塚
7	2), 3)	生薬・天然物に関する最新の研究について調べ、討議する。-2			講義·演習	大 塚
8	1), 2), 3), 4)	学習の成果を発表し、討議する。			SGD	大 塚
9	3), 4)	現代における漢方の適応についての資料を調べ、討議する。-1			講義·演習	渥美
10	3), 4)	現代における漢方の適応についての資料を調べ、討議する。-2			講義∙演習	渥美
11	3), 4)	各生薬を構成する薬用植物とそれらの産地を調べ、討議する。-1			講義∙演習	渥美
12	3), 4)	各生薬を構成する薬用植物とそれらの産地を調べ、討議する。-2			講義·演習	渥美
13	3), 4)	薬用植物の産地間での種差を調べ理解する。-1			講義·演習	渥美
14	3), 4)	薬用植物の産地間での種差を調べ理解する。-2			講義·演習	渥美
15	1), 2), 3), 4)	学習の成果を発表し、討議する。			SGD	渥美
				-	_	

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

なし なし

	科目名	医療薬学基礎液	寅習 I			授業コード	220022BDP1	単位数 (時間数)		単位 30)
配	当学科(学	年) 医療薬学研究科	斗(1•2•3年)			ナンバリング		AL 科目		0
	担当者	薬)、渥美聡孝((薬・薬)、堤敏) 人(薬・薬)、徳 宗明(薬・薬)	終)、大塚功(薬・ 薬・薬)、横山祥子 多(薬・薬)、鈴木彰 永仁(薬・薬)、日高 者を授業計画に記	開講学期	2024 年度後期	必修·選択	必修	授業形態	SGD), 演習
	医療薬学基礎演習 I では、これまで学んできた医薬品の品質についての充分な科学的根拠に基づく予測・ 受業の概要・一般 合的に活用できることを目的としている。即ち、薬剤師業務の中で、レギュラトリーサイエンスの品質の概念に 目標・対応するポ 化していく能力の向上を目指す。具体的には、医療現場での種々の設定におけるシミュレーションを演習形							既念に基づき 習形式で体験	業務を し、病	最適 院薬
	学修目標	2) 保険薬局に 3) 在宅医療に	おいて、レギュラトリー	-サイエンスの)品質の概念に基つき)品質の概念に基づき)品質の概念に基づき	業務を最適化で	きる。			
	務経験のな 員による教		、鈴木彰人(薬・薬)、	徳永仁(薬・薬	薬)、日高宗明(薬・薬)					
	評価方法 準備学習				田の評価基準は、第1 して指示があるので、			は、授業の前	後おっ	よび休
履	多上の注意	意等 日を利用して、	約1時間 / 講義 ×	15回 = 約	15時間以上必ず行う			1011 1221 13		
	フィスアワ	一 各担当教員のス	トフィスアワーと同じて	である。 						
回数	計画 学修 目標 No.			授賞	美内容			授: 方:		担当
1	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質予測	 ができる。				演	習 1	山 崎
2	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質評価	iができる。				演	習し	山崎
3	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質の判	断ができる				演	習し	山崎
4	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質の最	適化ができる)			演	習 1	山崎
5	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質を総	合的に討議す	する 。			S G	D ;	大 塚
6	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質予測	ができる。				演	習	大 塚
7	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質評価	iができる。				演	習力	大塚、渥美
8	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質の判	断ができる。				演	習力	大塚、渥美
9	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質の最	適化ができる) o			演	習相	横山、堤
10	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質を総	合的に討議す	たる。			S G	D 相	横山、堤
11	3)	在宅医療業務におけ	在宅医療業務における医薬品や品質安全性予測ができる。							横山、堤
12	3)	在宅医療業務における医薬品の品質評価ができる。						演	習	横山、堤
13	3)	在宅医療業務における医薬品品の品質の判断ができる。						演	習 #	鈴木、徳永、日高
14	3)	在宅医療業務におけ	在宅医療業務における医薬品の品質の最適化ができる。						習	鈴木、徳永、日高
15	3)	在宅医療業務における医薬品の品質を総合的に討議する。							D \$	鈴木、徳永、日高
教科	· 丰(著者:	L 名)出版社名【ISBN】	なし					1		

	科目名		免疫化学療法学	学特論			授業コード	220023BDP1	単位数 (時間数)		単位 (30)
配当	当学科(学	年)	医療薬学研究科	以(1•2•3 年)			ナンハ゛リンク゛		AL 科目		0
	担当者			を)、吉田裕樹(薬・ 担当者は授業計	開講学期	2024 年度後期	必修•選択	選択	授業形態	講義、沿	演習、SGD
	€の概要・・ 票・対応す・ リシーNo.		臨床現場では、 価するために、 可能性の予測、 るために、免疫	免疫化学療法学的知 評価、判断する能力 系の構成、抗原認識 の免疫反応や自己組	識や技能が を養い、病態 の原理など <i>の</i>	する誤った免疫反応に 必修となる。免疫化学系 や薬効を客観的に評価 基礎知識や概念、免疫 場った免疫反応によるフ	療法学特論では 面することで医療 を担当細胞や約	t、アレルギーな 寮の実践と進歩 且織、免疫あるい	ど免疫疾患を に貢献できる。 いは生体防御の	·引き起薬剤師 変剤師 の仕組	起こす 而とな 且みを
	学修目標		1) 免疫あるい(2) アレルギー系 3) 各免疫系疾 4) 主な免疫系系 5) 主な免疫系系 6) 主な免疫系系	は生体防御の仕組み ・患や自己免疫疾患 ・患について、治療薬に を患治療薬の副作用 を患治療薬の副作用 を患治療薬の副作用 を患治療薬について	の病態を概説 二求められる(や使用上の間 の発現機序を、 、副作用の発	できる。 乍用機序を病態に基づ 引題点を列挙できる。	見点から推測で				
	タ経験の 浸による 製		科目担当者(吉 業を行う。	田)は、臨床現場や研	研究機関での	実務経験に基づき、臨	床現場で必要	な基礎知識・技	能の修得を目	的とし	た授
	評価方法		毎授業後に行う ポート、プロダク 明する。	ト評価や口頭試問時	の理解度、持	、学習の進捗状況を把 受業態度)の評点を 100	%として単位認	定を行う。評価	の基準は授業		
	準備学習· 多上の注意)て毎回の授業での剝 5 時間の学習を行う		ば些細なことでも質問	するなどしてす	ぐに解決する態	度が必要。		
オ	フィスアワ	_		フィスアワーと同じて							
授業	計画										
回数	学修 目標 No.				授	美内容			授美方法		担当
1	1)	医薬	品の作用を免疫	学的実験で観察し、ヨ	里解する。				演		黒川
2	2)3)4)	各免	.疫系疾患の病態	と薬物治療に関する	知識を確認し	、理解する。			講	義	黒川
3	2)3)4)	免疫	系疾患の薬物治	療に関する最新の研	究内容を検索	をし、討議する。			演習・3	SGD J	黒川
4	3)4)5)	免疫	系疾患の薬物治	療の問題点をあげ課	題を設定し、	討議する。			演習・3	SGD J	黒川
5	6)7)	課題	に基づいて学習	の主題を設定し、その	意義を発表	して討議する。			演習・3	SGD J	黒川
6	5)6)7)	学習	主題に関連する	最新の英文論文を検	索し、選択し	て討議する。			演習・3	SGD J	黒川
7	5)6)7)	論文	を読み内容につ	いて討議する。					演習・3	SGD J	黒川
8	5)6)7)	論文	を読み内容につ	いて討議する。					演習·S	SGD J	黒川
9	5)6)7)	学習	の主題との関連	から、論文の内容を要	要約し、発表し	て討議する。			演習・3	SGD 7	吉田
10	5)6)7)	論文	を読み内容につ	いて討議する。					演習・3	SGD 7	吉田
11	5)6)7)	論文	を読み内容につ	いて討議する。					S G	D i	吉田
12	5)6)7)	学習	の主題との関連	から、論文の内容を要	要約し、発表し	て討議する。			演習・3	SGD 7	吉田
13	5)6)7)	学習の主題についてレポートを作成して討議する。							演習・5	SGD 7	吉田
14	1)~7) 学習の主題について発表し、討議する。								演習・3	SGD 7	吉田
15	1)~7)	~7) 学習の主題について発表し、討議する。							演習・3	SGD 7	吉田
教科	 書(著者:	名)出	版社名【ISBN】	なし						_	
				なし。							

				T				
	科目名	薬品作用学特論Ⅰ	授業コード	220024BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)		
配	当学科(学	医療薬学研究科(1・2・3 年)	ナンハ゛リンク゛		AL 科目	0		
	担当者	鳥取部直子(薬・薬)、比佐博彰 (薬・薬)、大倉正道(薬・薬) (今年度の担当者を授業計画に記載) 開講学期 2024 年 度 後 期		選択		講義、実習、SGD		
	医薬品は、病態の改善に劇的な役割を果たす一方で、副作用が発生し、この副作用そのものが患者に重篤ことがある。そのため、医薬品の適正使用において副作用発現の予測、評価、そして判断は、その安全性の欠となる。薬品作用学特論では、医薬品の安全性について、十分な科学的根拠に基づき予測、評価、判断す合的に活用することで、医療人として最善の職責を果たし、臨床現場において指導的立場に立てるよう(DP3知識を修得する。具体的には、主要な疾患の分子メカニズムを含めた様々な病態を学び、それらの治療薬の薬理作用・作用相用発現の予測、評価、そして判断ができる能力を修得する。近年の生命科学の進歩を見据え、薬物の作用相用発現の予測、評価、そして判断ができる能力を修得する。近年の生命科学の進歩を見据え、薬物の作用相床生化学に基づく病態生理学の知識も含めた分子レベルでの作用を見極める能力を修得する。さらに、特に「では、眼、心臓血管疾患と平滑筋薬理を取り上げ、それに基づき治療薬の副作用発現の予測、評価、そし力を培うことを目的とする。ディプロマポリシー、DPとの関連性 DP3:寄与率 100% 関連科目 この科目を学ぶために関連の強い科目:1~3 年次「薬品作用学特論 II」この科目を学んだあとにつなげる科目:2~3 年次「薬品作用学特論 II」							
	学修目標	1) 医薬品の主作用・副作用が発現する機序を概説できる。 2) 緑内障治療薬、散瞳薬、縮瞳薬などの検査薬を必要とする疾患の類 3) 眼・心臓血管疾患について、治療薬および検査薬に求められる作用 4) 眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬の副作用や使用上の問題点 5) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬の副作用の発現機序を 6) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬について、副作用の発現 7) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬について、副作用を防止	病態を概説できる 機序を病態に基 を列挙できる。 薬理作用と関連 現を病態と併用薬	づき説明できる させ説明できる。 の観点から推測	則できる。			
教	務経験のる 員による教	育						
	<u>評価方法</u> 準備学習	3回のレポートおよびロ頭発表を総合的に評価して単位認定を行う。 授業内容の項目について、講義内容のまとめを作成して復習を行うこと	:。なお、課題の 抗	是出物は、学期	末の学習成果に	フィードバ		
履作	多上の注意	等 ックに使用するので、各自で保管すると共に復習に活用すること。 鳥取部(第 I 薬理学講座)						
 	フィスアワ	大倉(分子生物学講座)						
		比佐(基礎薬理学研究室) 研究室ドアに掲示する。						
授業	計画							
回数	学修 目標 No.	授 業 内 容			授業 方法			
1	1)	医薬品の作用を薬理学的実験で観察し、説明する。			実習·SGD	鳥取部		
2	2-4)	病態と薬物治療に関する知識を確認し、説明する。			講義	鳥取部		
3	2-4)	薬物治療に関する最新の研究内容を検索し、討議する。			SGD	鳥取部		
4	3-5)	薬物治療の問題点をあげ課題を設定し、討議する。			SGD	鳥取部		
5	6)7)	課題に基づいて学習の主題を設定し、その意義を発表して討議する。			SGD	鳥取部		
6	5-7)	学習主題に関連する最新の英文論文を検索し、選択して討議する。	SGD	鳥取部				
7	5-7)	論文を読み内容について討議する。			SGD	鳥取部		
8	5-7)	論文を読み内容について討議する。			SGD	鳥取部		
9	5-7)	学習の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。			SGD	大 倉		
10	5-7)	SGD	大 倉					

SGD 比 佐

SGD

SGD

SGD

SGD

比 佐

比 佐 比 佐

鳥取部

11

5-7)

12 5-7)

13 5-7)

14 1-7)

15 1-7)

学習の主題についてレポートを作成して討議する。

学習の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。

論文を読み内容について討議する。

学習の主題について発表し、討議する。

学習の主題について発表し、討議する。

	科目名	薬品作用学特論Ⅱ	授業コード	220025BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学	E療薬学研究科(1·2·3 年)	ナンハ゛リンク゛		AL 科目	0
	担当者	松本貴之(薬・薬)、鳥取部直子 (薬・薬)、大倉正道(薬・薬)、比佐 博彰(薬・薬) (今年度の担当者を授業計画に記 載)		選 択		講義、SGD
	€の概要・・ 対応す: リシ−No.		則、評価、そして判 科学的根拠に基づ において指導的立 学び、それらの治療 学で、それらの治療 学の進歩 おを見極める能力を の副作用発現の	断は、その安全き予測、評価、4 場に立てるよう 、薬の薬理作用を見据え、薬物の を修得する。さら	性の確保におい 判断するための (DP3)、薬理学 ・作用機序からの作用機序につ に、特に、薬品・	いて不可能力をに関する に関する 、特には副 、特には特
	学修目標	2) 心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞、高血圧症の病態を概説できる。 3) 各循環器系疾患について、治療薬に求められる作用機序を病態(4) 循環器系疾患治療薬の副作用や使用上の問題点を列挙できる。 5) 主な循環器系疾患治療薬の副作用の発現機序を薬理作用と関連 6) 主な循環器系疾患治療薬について、副作用の発現を病態と併用 7) 主な循環器系疾患治療薬について、副作用を防止・改善する方法	こ基づき説明できる。 重させ説明できる。 薬の観点から推測	できる。		
	発経験の 景による 教					
	評価方法	3回のレポートおよびロ頭発表を総合的に評価する。				
	準備学習 [。] 多上の注意	│ 積極的に討議へ参加すること。ネットワークに繋がる PC を各自用意 等 │ 毎回課題を出すので、次回の授業までに完成させておくこと。	すること。			
	フィスアワ	各授業日 17:00~19:00 比佐(基礎薬理学研究室) 大倉(分子生物学講座) 鳥取部(第 I 薬理学講座) 松本(第 II 薬理学講座) 研究室ドアに掲示する。				
快 乗	計画 学修				授業	
数	目標 No.	授業内容			方法	担当
	1)2)3)	病態と薬物治療の概略			講義・SGI	比伐
	1)2)3)	発表と質疑応答			SGE	比位
3	3)4)5)	治療薬の種類と作用(1)討議			SGD	比佐·鳥取
ļ	3)4)5)	治療薬の種類と作用(2)討議・発表資料作成			SGE	比化
5	3)4)5)	発表と質疑応答			SGE	比佐·鳥取
i	4)5)6)	治療薬の問題点 (1) 討議			SGE	比化
	4)5)6)	治療薬の問題点 (2) 討議・発表資料作成			SGD	比化
	4)5)6)	発表と質疑応答、レポート作成			SGD	比佐·鳥取
)	5)6)7)				SGD	比位
10	5)6)7)				SGD	比位
1	5)6)7)	発表と質疑応答、レポート作成			SGD	▶ 比佐·鳥取部
12	3)~7)	最新の知見(1)情報収集・討議			SGE	
_	5, 1,	MANUTER AND ALL THE WAY HINK			000	

13 3)~7) 最新の知見(2)論文講読・討議

15 3)~7) 発表と質疑応答、レポート作成

14 3)~7) 最新の知見(3)討議・発表資料作成

SGD 比 佐

SGD 比 佐

SGD 比佐·鳥取部

教科書(著者名)出版社名【ISBN】	なし
参考書(著者名)出版社名【ISBN】	必要に応じレジュメを配布。

	科目名 医療公衆衛生薬学特論						220026BDP1	単位数 (時間数)		単位 30)
配	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3年)			ナンハ゛リンク゛		AL 科目		0
	担当者		(薬・薬)	開講学期	2024 年度後		選択	授業形態		, SGD
	€の概要・・ 票・対応す。 リシーNo.		医療の観点から、身の回りに存在する利 連を学び、充分な科学的根拠に基づき、 る。医療公衆衛生薬学特論では、栄養・ 境要因の疾病予防効果、安全性・毒性の 培うことを目的とする。	、健康の維 ・食品、保修	持・増進および疾 建統計と疫学、感勢	病の予測、評価、半 染症、生活習慣病、	川断ができる能力 職業病、毒性学	を培うことは 等について学	重要で び、各	であ 各種環
	1) 身の回りの種々の環境要因を列挙し、各要因と健康・疾病との関連を概説できる。 2) 栄養素および食品と健康・疾病との関連を概説できる。 3) 有害化学物質の毒性発現機構および毒性の予測・評価法について概説できる。 4) 環境汚染物質が列挙でき、汚染防止対策について概説できる。 5) 生活習慣のリスクファクターを列挙でき、その予防法を生活習慣と関連づけて説明できる。 6) 保健統計指標を列挙し、各指標の意義について説明できる。 7) 疫学的研究手法について概説でき、研究手法として利用できる。 8) 感染症や関連する法律について概説できる。									
	務経験のな 員による教		該当なし							
	評価方法		レポートおよび口頭発表により、総合的	に単位認定	を行う。					
	^辛 彌子百 多上の注意		討論等に積極的に参加する。また、授業	業時間外を	使って、レポート・	発表の準備等、15日	時間の学習を行	うこと。		
	フィスアワ	_	木村:月曜 16:30~17:30(M610 研究室	室)						
	計画 学修							اسا	ше	
回 数	目標			+亚 국	<u>د</u> جه جه			授美	美	100.00
	No.			1文 3	美内 容			方法		担当
1	No. 1)~4)	「健」	東と環境」概論	1文 才	長 内 谷				去	担当 木 村
			東と環境」概論 衆衛生学」概論	1文 月	長 内 谷			方法	去 義 2	
2	1)~4)	「公		技 3	長 内 谷			方法	表 え 表 ス	木村
3	1)~4) 5)6)	「公 疫学 環境	衆衛生学」概論 や的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連(議課題に基づいて学	学習の主題を設定	方流 講 講 S G	去 義 2 及 D 2	木村木村
3	1)~4) 5)6) 7)	「公学 環境	衆衛生学」概論 学的手法	についての	レポート作成・討	議課題に基づいて学	学習の主題を設定	方》 講 講 S G	去 義 え D	木 村 木 村
2 3 4 5	1)~4) 5)6) 7) 1)~8)	「公学 環境の学習	衆衛生学」概論 や的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議	についての	レポート作成・討	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 講 S G	去 義 え D D D	木 村 木 村 木 村
2 3 4 5 6	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8)	「公学」場の習	衆衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 中主題に関連する最新の英文論文を検索	についての	レポート作成・討	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 講 S G S G S G	去 義 え D D D	木材材木材料
1 2 3 4 5 6 7	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「公学場の習文文	衆衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 を読み、内容についての討議	についてのし、選択・言	レポート作成・討計	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 講 S G S G S G	去 義 之 D D D D U	木木木木川川川
2 3 4 5 6 7 8	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「公・安・環・子・論・論・学・論・論・学・論・論・学・論・論・学・論・論・学・記・学・会・学・会・学・会・学・会・学・会・会・会・会・会・会・会・会・会	衆衛生学」概論 学的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 学主題に関連する最新の英文論文を検索 を読み、内容についての討議 を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	レポート作成・討計	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 ま S G S G S G S G	去義 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	木木木木黒黒黒
2 3 4 5 6 7 8 9	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「変環そ学論論学論	で衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索に を読み、内容についての討議 を読み内容についての討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索に を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	レポート作成・討計	議課題に基づいて 学	学習の主題を設定	方法 講 ま S G S G S G S G	去 義 D D D D D D D D D	木木木木黒黒黒黒
2 3 4 5 6 7 8 9	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「公安環を学論論学論論	で衛生学」概論 中的手法 で要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 で主題に関連する最新の英文論文を検索 で読み、内容についての討議 で読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	義課題に基づいて 学	学習の主題を設定	方法 講 講 SG SG SG SG	去 義 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木木木木黒黒黒黒白
2 3 4 5 6 7 8 9 10	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「安環そ学論論学論論学	衆衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に意義の発表・討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 を読み、内容についての討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 を読み内容についての討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 「を読み内容についての討議 「を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方 講 講 S G S G S G S G S G	去 義 。 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木木木 果 黒 黒 白 白村村村村村川川川川川川崎崎
2 3 4 5 6 7	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「安環そ学論論学論論学学	中の手法 を関・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 ・主題に関連する最新の英文論文を検索 ・を読み、内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・主題に関連する最新の英文論文を検索 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方 講 講 S G S G S G S G S G S G	去 義 。 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木 木 木 黒 黒 黒 白 白 甲 村 村 村 村 川 川 川 川 川 崎 崎 斐
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「安環そ学論論学論論学学学	中の手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に意義の発表・討議 学主題に関連する最新の英文論文を検索 を読み、内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方 講 講 S G S G S G S G S G S G S G	去 義 。 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木 木 木 黒 黒 黒 白 白 甲 甲 村 村 村 村 川 川 川 川 崎 崎 斐 斐

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

なし

	科目名		医療薬学基礎消	富習 Ⅱ			授業コード	220027BDP1	単位数	:	2 単位
ボコ シ	当学科(学	(在)	医療薬学研究科				ナンバリング	2200273311	(時間数) AL 科目		(30) O
HL =	担当者		黒川昌彦(薬・薬 薬)、木村博昭((薬・薬)、鳥取き 田裕樹(薬・薬) 薬)	製)、松本貴之(薬・ 薬・薬)、白﨑哲哉 郡直子(薬・薬)、吉	開講学期	2024 年度前期	必修·選択	必修	授業形態	SO	 GD, 演習
	授業の概要・一般 目標・対応するポーリシーNo. 国標・対応するポーリシーNo. 国際、対応するポーリシーNo. 国際、対応するポーリシーNo. 国際、対応するポーリシーNo. 国際、対応するポーリシーNo. 国際、対応するポーリシーNo. 国際、対応するポーツを発音を表現的に評価することで医療の実践と進歩に貢献できる薬剤師となるために判断能力を総合的に活用できる能力を修得する。 1) 病院薬局において、安全性にかかわる大きな問題点を挙げ、解決策、手法、結果の 2) 保険薬局において、安全性にかかわる大きな問題点を挙げ、解決策、手法、結果の						こす可能性の予 ずとなるために、	りり。評価、判断 充分な科学的材	iする能力を 限拠に基づく	養い、	、病態
	学修目標		3) 在宅医療に	おいて、安全性にかた	いわる大きな問	問題点を挙げ、解決策、	手法、結果の	精査方法を討論	する。		
	務経験の∂ 員による敎		科目担当者(比を力を授業を行う。	佐・吉田)は、臨床現	場や研究機関	関での実務経験に基づ	さ、医楽品の安	全性を正しい評		を目	的とし
<u> </u>	評価方法	•	ポート、プロダク 明する。	ト評価や口頭試問時	の理解度、授	、学習の進捗状況を把 受業態度)の評点を 100 ば些細なことでも質問す	%として単位認り	定を行う。評価の	の基準は授業		
	多上の注意			5 時間の学習を行う							
	フィスアワ <u></u> (計画	/-	合担当教員のオ	フィスアワーと同じて	<i>ීන</i> ්තං						
回数	学修 目標 No.				授美	業内容			授業 方法		担当
1	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(1)。		演	習	吉田
2	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)。		演	習	吉田
3	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(3)。		演	習	鳥取部
4	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(4)。		演	習	鳥取部
5	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(1)。		演	習	松本
6	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)		演	習	松本
7	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(3)		演	習	白 﨑
8	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(4)		演	習	白 﨑
9	3)	在宅[医療業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(1)		演	習	木 村
10	3)	在宅[医療業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)		演	習	木村
11	3)	在宅医療業務における医薬品の安全性に対する予測・判断・評価を最適化できる(3)							演	習	甲斐
12	3)	在宅医療業務における医薬品の安全性に対する予測・判断・評価を最適化できる(4)							演	習	甲斐
13	1, 2, 3)	1, 2, 3) 薬剤師業務において医薬品の安全性に対する予測・判断・評価を最適化できる(1)						演	習	黒川	
14	1, 2, 3)	3) 薬剤師業務において医薬品の安全性に対する予測・判断・評価を最適化できる(2)					3(2)		演	習	黒川
15	5 1, 2, 3) 薬剤師業務において医薬品の安全性に対する予測・判断・評価を最適化できる					3(3)		演	習	黒川	
数彩	数科書(著者名)出版社名【ISBN】 なし										

								I		兴儿米	0 #4	14
	科目名		臨床薬学特論Ⅱ				授業コード	220029E		単位数 (時間数)	2 単 (30	
配	当学科(学	(年)	医療薬学研究科(1・2・3年)				ナンハ゛リンク゛		Α	AL 科目	0)
	担当者		鈴木 彰人(薬・薬)、園田 純一郎 (薬・薬)、日高 宗明(薬・薬)	開講学期	2024 年 月	度前 期	必修·選択	選	択 拐	受業形態	演習•	SGD
	类の概要・・ 票・対応す リシ−No.		チーム医療において、薬剤師には疾められる。すなわち、薬剤師は個々の務を担っている。 臨床薬学特論 IT では、個々の患者にな目的とする。指導的立場に立ち医療を科学的根拠に基づいて評価する能法、また臨床試験実施のための試験	の患者の薬物 おける治療療 原により貢献 力を身に付い 計画法などを	療法の問題を 効果を科学的できる薬剤師 か、治療の有な で修得する。	を把握し、 根拠に基 になるたる 効性や有質	医薬品情報を的 づいて予測、評 かに、症例の提 害性の科学的記	臨床応用している。 価そしていました。 示に対し、薬価法、薬	ンて薬学的 判断でき て患者の	的提案を行っています。 る能力を培り病態および	うという うことを 薬物治	任 生主 会療
	学修目標		1) 臨床検査値、検査所見、理学所見 2) TDM が必要な医薬品について、血 3) 薬物動態に影響を及ぼす要因を移 4) 症例に対して科学的根拠に基づし 5)薬物治療におけるファーマコビジラ 6) 薬物療法または栄養治療における	1中濃度の解 列挙し、それ! いた最適な治 シスの意義を	析および処方 こついて説明 [・] 療法の提案か を説明できる。	「設計がて できる。 ができる。	きる。					
	務経験のな 員による教											
	評価方法		学習への取り組み姿勢(授業での積 (50点)により総合的に評価して点数			など:50 点	京)および授業後	後の簡単な	は口頭試	問またはレ	ポートロ	内容
	準備学習 多上の注意		授業時間外に 15 時間の学習を行う	_ك。								
オ	フィスアワ	·—	在室時適宜									
授業	計画	ı										
_												
回 数	学修 目標 No.			授賞	美内容					授業 方法		旦当
		症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を		-) _o					ţ 15	旦当
数	目標 No.		提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問題	挙げ、その対	策を提案する					方法	t ^{tt} GD 鈴	
数 1	目標 No. 1)4)	症例		挙げ、その対題解決策の是	策を提案する	3 .	0			方法 演習·SG	si	i 木
数 1 2	目標 No. 1)4) 1)4)	症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ	策を提案する 是非を討議する のいて提案し、	る。 討議する	0			方法 演習·SC 演習·SC	GD 鈴GD 鈴	i 木 i 木
数 1 2 3	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6)	症例 症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対	策を提案する と非を討議する いて提案し、 策を提案する	る。 討議する				方法 演習·SC 演習·SC	GD 鈴GD 鈴GD 鈴	i 木 i 木
数 1 2 3 4	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4)	症例 症例 症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析	策を提案する 是非を討議する かいて提案し、 策を提案する 近し、投与プラ	る。 討議する う。 ンを立案				方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC	GO 鈴GO 鈴GO 鈴GO 鈴	i 木 i 木 i 木
数 1 2 3 4 5	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)	症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ 挙げ、その対態学的に解析	策を提案する 是非を討議する いて提案し、 策を提案する 所し、投与プラ 基づいて討議	る。 討議する 。 ンを立案 銭する。				方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	E	i 木 木 木 木 木 木
数 1 2 3 4 5	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6)	症例症例症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ挙げ、その対態学的に解析 当性を論文に	策を提案する 是非を討議する いて提案し、 策を提案する 所し、投与プラ 基づいて討議 策を提案する	る。 討議する 。 ンを立案 銭する。				方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### #### ####	木 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i 木 i ト i </td
数 1 2 3 4 5 6 7	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4)	症例例如症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を認 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を考	挙げ、その対題解決策の是 即評価法につ挙げ、その対態学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対策の是非を記	策を提案すると非を討議するのいて提案し、策を提案するのに、投与プラ基づいて討議策を提案するは議する。	る。 討議する 。 ・ンを立案 後する。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### #### ####	
数 1 2 3 4 5 6 7 8	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5)	症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を認 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を発 提示(3):患者治療における問題解決等	挙げ、その対題解決策の見の評価法につ挙げ、その対態学的に解析当性を論文に挙げ、その対策の是非を記しまる。	策を提案する 是非を討議する いて提案し、 策を提案する 「し、投与プラ 基づいて討議 策を提案する は議する。 は治療法を提	る。 討議する う。 ンを立案 録する。 。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### #### ####	木木木木木田田田
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5)	症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):医薬品の使用実態データ等を	挙げ、その対題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対態学的に解析 当性を論文に をげ、その対策 策の是非を記 をもとに最適の対	策を提案する 是非を討議する いて提案し、 策を提案する 「し、投与プラ 基づいて討議 策を提案する は満する。 な治療法を提	る。 討議する う。 ・ンを立案 養する。 。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### #### ####	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4)	症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):患者治療における問題解決等	挙げ、その対題解決策の見の評価法につ挙げ、その対態学的に解析当性を論文に挙げ、その対策をした。 をもとに最適ない。その対策をある。 挙げ、その対策をある。	策を提案すると非を討議するのいて提案し、策を提案するのに対して討議策を提案するは議する。は治療法を提案するとは治療法を提案するとは非を持続する。	る。 討議する う。 ・ンを立案 録する。 。 案し、討調	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### ###	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	目標 No. 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6)	症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問題	挙げ、その対題解決策の是の評価法につかが、その対象を対している。 対している。 はいるの対象を対している。 はいるの対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	策を提案すると非を討議するいて提案するのに、策を提案するのでは、対して対議策を提案するとは、対して対議策を提系を提系を提及して対議策を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を提系を	る。 討議する う。 ンを立案 録する。 。 案し、討論 る。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### ###	** ** **
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	目標 No. 1)4) 1)4)6) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6) 4)6) 4)6)	症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問題 提示(4):科学的根拠に基づいて最適な	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ挙げ、その対態学的に解析を対した。 を対し、その対策を対している。 を対し、その対策をした。 をもとに最適ない。 をもとに最適ない。 をもとに、その対策をは、その対象は、その対象に、その対象に、その対象に、その対象には、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これ	策を提案すると非を討議するい、策を提案するのが、策を提案するのが、基本を提案するのは、当該を提案するのは、当該を提案するのは、当該を提案を提供し、対策を提供し、対策を提供し、対策を提供し、対策を提供し、対策を提供し、対策を提供し、対策を提供し、対策を提案を提供し、対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対	る。 討議する 。 ・ンを立案 し、討論 る。	する。			方法 演習 · S · S · S · S · S · S · S · S · S ·		
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	目標 No. 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4)6) 1)3)4) 6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6) 1)4) 4)6) 1)4)	症症症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を認 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を認 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):患者の臨床状態の問題点を認 提示(4):患者の臨床状態の問題点を認 提示(4):患者の臨床状態の問題点を認 提示(4):患者の臨床状態の問題点を認 以表示(4):患者の臨床状態の問題点を認 以表示(4):患者の臨床状態の問題点を認	挙げ、その対題解決策の是別評価法につ挙げ、その対態当性を命動を対した。 を対し、その対策を対している。 を対しているができます。 を対している。 をがしている。 をがしな、 をがしている。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。 をがしな。	策を提案すると非を討議するい、策を提案するで、大きを提案を引きる。は、対いとなる。とは、対いとなる。とは、対いとなる。とは、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	る。 討議する う。 かンを立案 し、討議 る。 る。	する。			方法 演習 · SC 演習 習 · SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### ###	木木木木木木木木田田田田田田田

なし

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	科目名		フィジカルアセスメント特論	授業コード	220030BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配当	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3年)	ナンバリング		AL 科目	0
	担当者		高村徳人(薬·薬)、徳永仁(薬· 薬)、緒方賢次(薬·薬)、興梠靖幸 開講学期 2024 年 度 前 (薬·薬)、戸井田達典(薬・薬)		選択	授業形態	講義、実習、SGD
	きの概要・・ ・対応する リシーNo.		これからの薬剤師業務においては、治療薬の有効性の予測、評価、バイタルサインなどの生体反応を正確に把握できるフィジカルアセス論では、薬物による生体反応を把握する技術とその理論および薬物床の場において治療薬の有効性の予測、評価、判断能力を培うことを用い薬物投与による病態変化を再現しながら、それらの病態から変物投与を行うには吸収、分布、代謝、排泄を考慮する必要があるは標的組織への薬物移行量を反映し効果に直結するため、それらを	メント技術の習得が生体内分布とその生体内分布とそのを目的とする。具体薬物の有効性を把持るが、なかでも、タン・予測、評価そしても	が不可欠である。 効果について学 が的には、種々の 握させる能力を パク結合が大き	。フィジカルア・ さび、ベッドサイ)高性能生体シ 修得させる。さ きく関与する薬	セスメント特 (ドを含む臨 ノミュレータ らに、有効 ・物の分布
	学修目標		1) 循環器、呼吸器、感覚に関するフィジカルアセスメントを概説できる2) 種々の心音や呼吸音について心臓や肺の機能・器質から理論的3) 薬剤性アナフィラキシー、高カリウム血症、高血糖などの病態変化治療の有効性を概説できる。 4) 血清タンパク質や膜輸送タンパク質の生体内分布について説明で5) 血清タンパクの結合サイトの結合能の経時的変化から薬物の移行6) 疼痛患者のバイタルサインや臨床検査値から、適切な鎮痛薬を退7) フィジカルアセスメントと生体内分布の関係から薬物の効果を改き3) ガン疼痛緩和の方法を提示できる。 9) 腎障害のなる 無数程度の表現を表現していません。	に説明できる。 にを再現した高性能できる。 できる。 「性を推測できる。 選択し効果的な投与 になったまを討議し	5法を提示できる。 説明できる。	5.	
	务経験のな 員による教		実務経験のある薬剤師と医師が担当し、臨床に役立つ業務や工夫によび演習を行う。	こついて思考する前	も力を養うことを	目的として講	、SGD お
	評価方法		毎時間質問することにより学習成果のフィードバックを行う。レポート 位認定を行う。	(80%)、口頭試験	(10%)、プレゼン	ンテーション(1	0%)で単
	準備学習・ 多上の注意		授業時間外に 15 時間の学習を行うこと。				
才	フィスアワ	_	講義の前後に講義した場所で行う。				
授業	計画						
回 数	学修 目標 No.		授 業 内 容			授美 方法	去 担ヨ
1	1)		器、呼吸器、感覚のフィジカルアセスメントを確認し、理解する。				義を施み
2	2)	種々	の心音や呼吸音を体験し心臓や肺の状態を理解する。			実	習 徳・永
3	3)		性アナフィラキシーなどを体験し病態と治療法を理解する。 			実	習 徳・永
4	4)		fタンパク質や膜輸送タンパク質の生体内分布の差異を調べ、理解する 			講	
5	4)5)	血清	fタンパク結合能の経時的変化と薬物移行性について調べ、理解する。 			講	義 髙村
6	6)	疼痛	時のバイタルサイン変化と臨床検査値変化の関係を調べ、理解する。			講	義 髙 村
7	4)~8)	学習	主題に関連する最新の英文論文を検索し、選択して討議する。			S G	D 緒方
8	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 緒方
9	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 緒方
10	4)~8)	学習	の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。。			S G	D 興 梠
11	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 興 梠
12	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 興 梠
13	6)~9)	学習	の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。			S G	D 戸井田
14	6)~9)	学習	の主題についてレポートを作成して討議する。			S G	D 戸井田
15	6)~9)	学習	の主題について発表し、討議する。			S G	D 戸井田
教科	書(著者:	名)出	版社名【ISBN】 使用しない。			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
参考	書(著者:	名)出	版社名【ISBN】 必要に応じレジュメを配布。 薬のうごきを「みえる化」する:一目で伝わる ADME			— <u>—</u> 5用	

	科目名		医療薬学基礎濱	寅習Ⅲ			授業コード	220032BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学	:年)	医療薬学研究科	以(2•3 年)			ナンハ゛リンク゛		AL 科目	0
	担当者			薬・薬)、鈴木彰人 純一郎(薬・薬)、日 、緒方賢次(薬・	開講学期	2024 年度後期	必修·選択	必修	授業形態	SGD, 演習
	∮の概要・・ 票・対応す リシーNo.		総合的に活用で 最適化していく 院薬局、保険薬 討結果を客観的	きることを目的として 能力の向上を目指す 局、在宅医療の場に かに評価し総括する能	いる。即ち、 。具体的には おいて、問題 わを修得する	薬品の有効性について 薬剤師業務の中で、レ・ 、医療現場での種々の 点を抽出し検討課題を 。これらの修得により ・担う人材の養成を行し	ギュラトリーサイ 設定におけるシ 設定でき、課題 、自己研鑽に努	(エンスの有効性) レミュレーションを 逐後行の手法を が、問題点や社	生の概念に基 を演習形式で 選択し実施す L会的動向を持	づき業務を 体験し、病 る能力、検 巴握し、解
	学修目標		1)病院薬局に 2)保険薬局に	おいて、レギュラトリー おいて、レギュラトリー	-サイエンス <i>の</i> -サイエンス <i>の</i>)有効性の概念に基づ)有効性の概念に基づ)有効性の概念に基づ	き業務を最適化き業務を最適化	ごできる。 ごできる。		
教		女育	ンをとりながら実 て図ることができ	ミ務経験を積んでいる き、その経験を生かし	。このため、 て学生に教育	らのもおり、患者や医師 患者・来局者、他の医療 できる。 状況,授業態度〕(約5	療従事者とのコ	ミュニケーション	を実践的に、	かつ一貫し
	詳価方法 準備学習 多上の注意	•	問題に関係する	前後、週末および長期	あらかじめ添	、計 60 時間の予習・1 付文書をダウンロード				
才	フィスアワ	' —	毎週月曜~金曜	瞿日 各教員が示して	いるオフィス	アワーに準じる。				
授業	計画	1								1
回 数	学修 目標 No.				授 第	大 容			授美 方流	
1	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の有効性の	予測ができる	00			演	習鈴オ
2	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の有効性の	評価ができる	0 0			演	習鈴木
3	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の有効性の	判断ができる	00			演	習日育
4	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の有効性の	最適化ができ	きる。			演	習日高
5	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の有効性を	総合的に討議	養する。			S G	D 戸井田
6	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の有効性の	予測ができる	00			演	習徳が
7	2)	保険	薬局業務におけ	 る医薬品の有効性の	評価ができる	00			演	習徳が
8	2)	保険	薬局業務におけ	 る医薬品の有効性の	判断ができる	00			演	習園田
9	2)	保険	薬局業務におけ	 る医薬品の有効性の	最適化ができ	 きる。			演	習 園 田
10	2)	保険	薬局業務におけ	 る医薬品の有効性を	総合的に討議	 負する 。			SG	D 黒 川
11	3)	在宅	医療業務におけ	 る医薬品の有効性の	予測ができる	00			演	習る高を
12	3)	在宅	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー							習高を
13	3)	在宅	医療業務におけ	 る医薬品の有効性の	判断ができる	00			演	習し緒 カ
14	3)		在宅医療業務における医薬品の有効性の最適化ができる。						演	
1.5	3)	在宅	医療業務におけ	 る医薬品の有効性を	総合的に討議	 もする。			S G	D 戸井田
15										

参考書(著者名)出版社名【ISBN】 必要に応じレジュメを配布。

			T	T	22 21 30	- 22/11
	科目名	東洋医薬学特論	授業コード	220019BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学		ナンバリング	,	AL 科目	0
	担当者	大塚 功(薬·薬)、渥美 聡孝(薬・ 開講学期 2024 年度前期 薬)	必修•選択	選択	受業形態 講	義、実習、SGD
	きの概要・・ デ・対応す リシーNo.	るよ。 こで個々の生薬や漢方処方の品質を予測、評価そして判断できる能力が 天然物の品質に基づき、個々の患者におけるそれらの薬効を予測、評価では、漢方処方に含まれる各生薬の基本的性質、各生薬の品質に係る知識をふまえ臨床の場での効果や副作用を予測、評価し、適切な投薬	日本では、伝統 「現在の医療現り が求められる。ま 面そして判断でき 要素、他生薬や 去を判断できる自	性医療である東洋 場において重要な また、生薬や漢方を る能力は重要で 他治療薬との相2	医薬学がこの。 :役割を担って「 処方の成分に。 ある。東洋医薬 豆関係を学び、	ような必 いる。そ 含まれる 薬学特論
	学修目標	1) 代表的な漢方処方について、それぞれに含まれる生薬とその薬効を 2)生薬の品質を決定する要因を挙げ、品質に及ぼす影響を説明できる。 3)自然界から得られる天然医薬品の有用性について説明できる。 4) 代替補完医療としての漢方の役割と、他の医療との関連性を概要で				
	務経験のる 員による教					
	評価方法	レポートおよびロ頭発表を総合的に評価する。				
	準備学習 多上の注意	等 授業時間外に 15 時間の学習を行うこと。				
オ	フィスアワ	随時。アポイントメントをとること。 通常は薬学棟(4 号棟)6 階生薬学講座に在室している。				
授業	計画					
回数	学修 目標 No.	授 業 内 容			授業 方法	担当
1	1), 2), 3), 4)	代表的な漢方処方と含まれる生薬、天然物を分類し、理解する。			講義	大 塚
2	2), 3)	薬用植物の薬効成分を調べ理解する。-1			講義·演習	大 塚
3	2), 3)	薬用植物の薬効成分を調べ理解する。-2			講義·演習	大 塚
4	2), 3)	自然界に存在する天然医薬品について調べ、討議する。−1			講義·演習	大 塚
5	2), 3)	自然界に存在する天然医薬品について調べ、討議する。-2			講義·演習	大 塚
6	2), 3)	生薬・天然物に関する最新の研究について調べ、討議する。-1			講義∙演習	大 塚
7	2), 3)	生薬・天然物に関する最新の研究について調べ、討議する。-2			講義·演習	大 塚
8	1), 2), 3), 4)	学習の成果を発表し、討議する。			SGD	大 塚
9	3), 4)	現代における漢方の適応についての資料を調べ、討議する。-1			講義·演習	渥美
10	3), 4)	現代における漢方の適応についての資料を調べ、討議する。-2			講義∙演習	渥美
11	3), 4)	各生薬を構成する薬用植物とそれらの産地を調べ、討議する。-1			講義∙演習	渥美
12	3), 4)	各生薬を構成する薬用植物とそれらの産地を調べ、討議する。-2			講義∙演習	渥美
13	3), 4)	薬用植物の産地間での種差を調べ理解する。-1			講義·演習	渥美
14	3), 4)	薬用植物の産地間での種差を調べ理解する。-2			講義·演習	渥美
15	1), 2), 3), 4)	学習の成果を発表し、討議する。			SGD	渥美
				-	_	

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

なし なし

	科目名	医療薬学基礎濱	 寅習 I			授業コード	220022BDP1	単位数 (時間数)	2 単 (30	-
配	当学科(学	年) 医療薬学研究科	斗(1•2•3年)			ナンバリング		AL 科目	0)
	山﨑哲郎(薬・薬)、大塚功(薬・ 薬)、渥美聡孝(薬・薬)、横山祥子 (薬・薬)、堤敏彦(薬・薬)、鈴木彰 人(薬・薬)、徳永仁(薬・薬)、日高 宗明(薬・薬) (今年度の担当者を授業計画に記 載) との24年度後期 必修・選択 必 原療薬学基礎演習 I では、これまで学んできた医薬品の品質についての充分な科学的根							授業形態	SGD,	演習
	医療薬学基礎演習 I では、これまで学んできた医薬品の品質についての充分な科学的根拠に基づく予測・評 と業の概要・一般 合的に活用できることを目的としている。即ち、薬剤師業務の中で、レギュラトリーサイエンスの品質の概念に はしていく能力の向上を目指す。具体的には、医療現場での種々の設定におけるシミュレーションを演習形式 リシーNo. 局、保険薬局、在宅医療の場において、問題点を抽出し検討課題を設定でき、課題遂行の手法を選択し実施す 果を客観的に評価し総括する能力を修得する。 1) 病院薬局において、レギュラトリーサイエンスの品質の概念に基づき業務を最適化できる。									最適 記薬
	学修目標	2) 保険薬局に 3) 在宅医療に	おいて、レギュラトリー	-サイエンスの)品質の概念に基づき)品質の概念に基づき)品質の概念に基づき	業務を最適化で	きる。			
	務経験のる 員による教		、鈴木彰人(薬・薬)、	徳永仁(薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・薬・	薬)、日高宗明(薬・薬)					
	評価方法 準備学習				細の評価基準は、第 1 して指示があるので、			は、授業の前	で 後お上で	7ぶけ
	多上の注意				15時間以上必ず行う			100,12,20,10	120350	O 1/1
	フィスアワ	ー 各担当教員のオ	トフィスアワーと同じて	である。 						
	学修							120	Alfe	
回数	目標 No.			授業	人 内 容			授 方 方		旦当
1	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質予測	ができる。				演		崎
2	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質評価	iができる。				演	習山	崎
3	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質の判	断ができる				演	習山	﨑
4	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質の最	適化ができる	ò.			演	習山	1 峭
5	1)	病院薬局業務におけ	る医薬品の品質を総	合的に討議す	ける。			S G	D 大	、塚
6	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質予測	ができる。				演	習大	、塚
7	2)	保険薬局業務におけ		iができる。				演	習	冢、渥美
8	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質の判	断ができる。				演	習	冢、渥美
9	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質の最	適化ができる)			演	習横し	山、堤
10	2)	保険薬局業務におけ	る医薬品の品質を総	合的に討議す	たる。			S G	D 横L	山、堤
11	3)	在宅医療業務におけ		性予測ができ	<u></u> きる。			演	習横	山、堤
12	3)	在宅医療業務におけ	在宅医療業務における医薬品の品質評価ができる。							山、堤
13	3)	在宅医療業務におけ	る医薬品品の品質 <i>の</i>	判断ができる)			演	習餘	徳永、日高
14	3)	在宅医療業務におけ	る医薬品の品質の最	適化ができる) ₀			演	習餘	徳永、日高
15	3)	在宅医療業務におけ	る医薬品の品質を総	合的に討議す	ける。			S G	D 鈴木、	徳永、日高
教科	書(著者:	· 名)出版社名【ISBN】	なし					<u> </u>		

	科目名	免疫化	 学療法学特論				授業コード	220023BDP1	単位数 (時間数)		単位 (30)
配当	当学科(学	年) 医療薬	学研究科(1•2•3 年)				ナンハ゛リンク゛		AL 科目		0
	担当者		彦(薬・薬)、吉田裕樹 今年度の担当者は授 載)	-	開講学期	2024 年度後	期 必修·選択	選択	授業形態	講義、	演習、SGD
	きの概要・・ デ・対応す・ リシ−No.	一般 るホ [®] 一一般 るため 理解し	場では、過度の免疫だめに、免疫化学療法の予測、評価、判断でい、免疫を構成、対で、免疫系の構成、対で、過度の免疫反応なもある。	法学的知識 する能力を 亢原認識の	戦や技能が 養い、病態)原理など <i>の</i>	必修となる。免疫(や薬効を客観的に)基礎知識や概念	と学療法学特論では 三評価することで医さ 、免疫担当細胞や約	は、アレルギーな 療の実践と進歩Ⅰ 組織、免疫あるい	ど免疫疾患を こ貢献できる。 は生体防御(·引き 薬剤師 の仕組	起こす 師とな 狙みを
	学修目標	2) アレ 3) 各免 4) 主な 5) 主な 6) 主な 7) 主な	あるいは生体防御の ルギー疾患や自己免 疫系疾患について、 免疫系疾患治療薬の 免疫系疾患治療薬の 免疫系疾患治療薬に 免疫系疾患治療薬に	き疫疾患の 治療薬に の副作用や の副作用の こついて、 こついて、 こついて、	病態を概説 求められる(ら使用上のほ) 分発現機序で 副作用の発 副作用を防	だできる。 作用機序を病態に 問題点を列挙でき を説明できる。 現を病態と併用薬 止・改善する方法:	る。 の観点から推測で を討議し説明できる	きる。 。			
	務経験のな 員による教		当者(吉田)は、臨床 う。	現場や研	究機関での	実務経験に基づき	た、臨床現場で必要	な基礎知識・技能	能の修得を目	的とし	た授
	評価方法	毎授業・ ポート、 明する。	後に行う簡単な口頭 プロダクト評価やロ頭 。 識を含めて毎回の授	頭試問時の	の理解度、摂	受業態度)の評点を	2 100%として単位認	に定を行う。評価の	の基準は授業		
履修	多上の注意		間外に 15 時間の学								
	フィスアワ	一 各担当	教員のオフィスアワー	ーと同じでは	ある。 						
12未	計画 学修									#	
数	目標 No.				授)	集内容			方法		担当
1	1)	医薬品の作用	用を免疫学的実験で	観察し、理	解する。				演	習	黒川
2	2)3)4)	各免疫系疾患	Bの病態と薬物治療I	に関する知	口識を確認し	、理解する。			講	義	黒川
3	2)3)4)	免疫系疾患の	D薬物治療に関する	最新の研究	究内容を検索	素し、討議する。			演習・3	GD :	黒川
4	3)4)5)	免疫系疾患の	D薬物治療の問題点	をあげ課題	題を設定し、	討議する。			演習・5	GD :	黒川
5	6)7)	課題に基づい	いて学習の主題を設定	定し、そのだ	意義を発表	して討議する。			演習・5	GD :	黒川
6	5)6)7)	学習主題に関	関連する最新の英文語	論文を検索	えし、選択し	て討議する。			演習・3	GD :	黒川
7	5)6)7)	論文を読み内		5 .					演習・5	GD :	黒川
8	5)6)7)	論文を読み内		5.					演習・5	GD :	黒川
9	5)6)7)	学習の主題と	 :の関連から、論文の)内容を要	 約し、発表し	て討議する。			演習・5	GD .	吉田
10	5)6)7)	論文を読み内		5 .					演習・5	GD .	吉田
11	5)6)7)	論文を読み内		5 .					S G	D ·	吉田
12	5)6)7)	学習の主題と	この関連から、論文の	内容を要	約し、発表し	て討議する。			演習・5	GD .	吉田
13	5)6)7)	学習の主題に	 こついてレポートを作	成して討論	 養する。				演習・5	GD .	吉田
14	1)~7)	学習の主題に	こついて発表し、討議	する。					演習・気	GGD .	吉田
15	1)~7)	学習の主題に	こついて発表し、討議	する。					演習・5	GGD .	吉田
教科	 書(著者:	名)出版社名【I	SBN】 なし						l		
参考	書(著者:	名)出版社名【I	SBN】 なし。								

				T		
	科目名	薬品作用学特論 I	授業コード	220024BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学	年) 医療薬学研究科(1·2·3 年)	ナンバリング		AL 科目	0
	担当者	鳥取部直子(薬・薬)、比佐博彰 (薬・薬)、大倉正道(薬・薬) (今年度の担当者を授業計画に記載) 開講学期 2024 年度後期		選択		講義、実習、SGD
	€の概要・ 対応す リシーNo.		、評価、そして判 学的根拠に基づき おいて指導的立 、それらの治療等 科学の進歩を見 極める能力を修 、 での副作用発す	断は、その安全 き予測、評価、半 場に立てるよう 薬の薬理作用・作 見据え、薬物の作 得する。さらに、	性の確保におい 川断するためので (DP3)、薬理学 作用機序から、な 作用機序につい 特に、薬品作り	いて不可能力を紹ってに関するに関する。 特には、これでは、 特には、これでは、 特には、 特には、 特には、 特には、 特には、 特には、 特には、 特に
	学修目標	1) 医薬品の主作用・副作用が発現する機序を概説できる。 2) 緑内障治療薬、散瞳薬、縮瞳薬などの検査薬を必要とする疾患の類 3) 眼・心臓血管疾患について、治療薬および検査薬に求められる作用 4) 眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬の副作用や使用上の問題点 5) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬の副作用の発現機序を 6) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬について、副作用の発現 7) 主な眼・心臓血管疾患治療薬および検査薬について、副作用を防止	病態を概説できる機序を病態に基を列挙できる。 薬理作用と関連記を病態と併用薬	づき説明できる。 させ説明できる。 の観点から推測	則できる。	
教	務経験ので 員による教	育				
	評価方法 準備学習	3回のレポートおよびロ頭発表を総合的に評価して単位認定を行う。 授業内容の項目について、講義内容のまとめを作成して復習を行うこと	:。なお、課題の抗	是出物は、学期:	末の学習成果ス	フィードバ
履修	多上の注意					
+	フィスアワ	│ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │ │				
73	J1/J/	比佐(基礎薬理学研究室) 研究室ドアに掲示する。				
授業	計画	MINUTEL A LCIENTA DO				
回数	学修 目標 No.	授 業 内 容			授業 方法	
1	1)	医薬品の作用を薬理学的実験で観察し、説明する。			実習·SGD	鳥取部
2	2-4)	病態と薬物治療に関する知識を確認し、説明する。			講義	鳥取部
3	2-4)	薬物治療に関する最新の研究内容を検索し、討議する。			SGD	鳥取部
4	3-5)	薬物治療の問題点をあげ課題を設定し、討議する。			SGD	鳥取部
5	6)7)	課題に基づいて学習の主題を設定し、その意義を発表して討議する。			SGD	鳥取部
6	5-7)	学習主題に関連する最新の英文論文を検索し、選択して討議する。			SGD	鳥取部
7	5-7)	論文を読み内容について討議する。			SGD	鳥取部
8	5-7)	論文を読み内容について討議する。			SGD	鳥取部
9	5-7)	学習の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。			SGD	大 倉
10	5-7)	論文を読み内容について討議する。			SGD	大 倉

SGD 比 佐

SGD

SGD

SGD

SGD

比 佐

比 佐 比 佐

鳥取部

11

5-7)

12 5-7)

13 5-7)

14 1-7)

15 1-7)

学習の主題についてレポートを作成して討議する。

学習の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。

論文を読み内容について討議する。

学習の主題について発表し、討議する。

学習の主題について発表し、討議する。

	科目名	薬品作用学特論Ⅱ	授業コード	220025BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学	E療薬学研究科(1·2·3 年)	ナンハ゛リンク゛		AL 科目	0
	担当者	松本貴之(薬・薬)、鳥取部直子 (薬・薬)、大倉正道(薬・薬)、比佐 博彰(薬・薬) (今年度の担当者を授業計画に記 載)		選 択		講義、SGD
	ぎの概要・・ 対応す リシ−No.		則、評価、そして判 科学的根拠に基づ において指導的立 学び、それらの治療 学な、それらの治療 学の進歩 日を見極める能力を の副作用発現の は は は に は に に に に に に に に に に に に に	断は、その安全き予測、評価、計場に立てるようを薬の薬理作用を見据え、薬物にを修得する。さら	性の確保におい 判断するための (DP3)、薬理学 ・作用機序からの作用機序につ に、特に、薬品・	いて不可能力を総に関する 、特に副 、特にはは 作用学特
	学修目標	2) 心不全、不整脈、狭心症、心筋梗塞、高血圧症の病態を概説できる。 3) 各循環器系疾患について、治療薬に求められる作用機序を病態(4) 循環器系疾患治療薬の副作用や使用上の問題点を列挙できる。 5) 主な循環器系疾患治療薬の副作用の発現機序を薬理作用と関連 6) 主な循環器系疾患治療薬について、副作用の発現を病態と併用 7) 主な循環器系疾患治療薬について、副作用を防止・改善する方法	こ基づき説明できる。 重させ説明できる。 薬の観点から推測	できる。		
	務経験のる 員による教					
	評価方法	3回のレポートおよびロ頭発表を総合的に評価する。				
	準備学習 多上の注意	→ 積極的に討議へ参加すること。ネットワークに繋がる PC を各自用意等 → 毎回課題を出すので、次回の授業までに完成させておくこと。	すること。			
	フィスアワ	各授業日 17:00~19:00 比佐(基礎薬理学研究室) 大倉(分子生物学講座) 鳥取部(第 I 薬理学講座) 松本(第 II 薬理学講座) 研究室ドアに掲示する。				
	計画 学修				+亞 *	
回 数	目標 No.	授 業 内 容			授業 方法	担当
	1)2)3)	病態と薬物治療の概略			講義·SGI	比伐
<u>-</u>	1)2)3)	発表と質疑応答			SGE	比伐
3	3)4)5)	治療薬の種類と作用(1) 討議			SGD	比佐·鳥取部
ļ	3)4)5)	治療薬の種類と作用(2)討議・発表資料作成			SGD	比也
5	3)4)5)	発表と質疑応答			SGE	比佐·鳥取
6	4)5)6)	治療薬の問題点 (1) 討議			SGE	比位
,	4)5)6)	治療薬の問題点 (2) 討議・発表資料作成			SGD	比伐
}	4)5)6)	発表と質疑応答、レポート作成			SGD	比佐·鳥取台
)	5)6)7)	治療薬の問題点への対処 (1) 討議			SGD	比也
0	5)6)7)	治療薬の問題点への対処(2)討議・発表資料作成			SGD	比位
1	5)6)7)	発表と質疑応答、レポート作成			SGD) 比佐·鳥取
2	3)~7)				SGD	比位
						ļ ' -

13 3)~7) 最新の知見(2)論文講読・討議

15 3)~7) 発表と質疑応答、レポート作成

14 3)~7) 最新の知見(3)討議・発表資料作成

SGD 比 佐

SGD 比 佐

SGD 比佐·鳥取部

教科書(著者名)出版社名【ISBN】	なし
参考書(著者名)出版社名【ISBN】	必要に応じレジュメを配布。

	科目名		医療公衆衛生薬学特論			授業コード	220026BDP1	単位数 (時間数)		単位 (30)
配	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3年)			ナンハ゛リンク゛		AL 科目		0
	担当者		(薬・薬)	開講学期	2024 年度後		選択	授業形態		₹.SGD
	€の概要・・ 票・対応す。 リシーNo.		医療の観点から、身の回りに存在する程連を学び、充分な科学的根拠に基づき、 る。医療公衆衛生薬学特論では、栄養・ 境要因の疾病予防効果、安全性・毒性の 培うことを目的とする。	、健康の維 ・食品、保修	持・増進および疾 建統計と疫学、感勢	病の予測、評価、半 染症、生活習慣病、	川断ができる能力 職業病、毒性学	を培うことは 等について学	重要で び、各	であ 各種環
	学修目標		1) 身の回りの種々の環境要因を列挙し 2) 栄養素および食品と健康・疾病との 3) 有害化学物質の毒性発現機構および 4) 環境汚染物質が列挙でき、汚染防止 5) 生活習慣のリスクファクターを列挙で 6) 保健統計指標を列挙し、各指標の意 7) 疫学的研究手法について概説でき、 8) 感染症や関連する法律について概認	関連を概説 び毒性のう と対策につ でき、そのう 気義についっ 研究手法。	できる。 ・測・評価法につい いて概説できる。 ・防法を生活習慣。 て説明できる。	ヽて概説できる。 と関連づけて説明で	ෑප්රි			
	務経験のな 員による教		該当なし							
	評価方法		レポートおよび口頭発表により、総合的	に単位認定	を行う。					
	^辛 彌子百 多上の注意		討論等に積極的に参加する。また、授業	業時間外を	使って、レポート・	発表の準備等、15日	時間の学習を行	うこと。		
	フィスアワ	_	木村:月曜 16:30~17:30(M610 研究室	室)						
	計画 学修							اسا	ше	
回 数	目標			+亚 국	<u>د</u> جه جه			授美	美	+0 1/
	No.			1文 3	美内 容			方法		担当
1	No. 1)~4)	「健」	東と環境」概論	1文 才	長 内 谷				去	拉当 木 村
			東と環境」概論 衆衛生学」概論	1文 月	長 内 谷			方法	去 義 2	
2	1)~4)	「公		技 3	長 内 谷			方法	表 え 表 ス	木村
3	1)~4) 5)6)	「公 疫学 環境	衆衛生学」概論 や的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連(議課題に基づいて学	学習の主題を設定	方流 講 講 S G	去 義 2 及 D 2	木 村 木 村
3	1)~4) 5)6) 7)	「公学 環境	衆衛生学」概論 学的手法	についての	レポート作成・討	議課題に基づいて学	学習の主題を設定	方》 講 講 S G	去 義 え D	木 村 木 村
2 3 4 5	1)~4) 5)6) 7) 1)~8)	「公学 環境の学習	衆衛生学」概論 的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連(意義の発表・討議	についての	レポート作成・討	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 講 S G	去 義 え D D D	木 村 木 村 木 村
2 3 4 5 6	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8)	「公学」場の習	衆衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 中主題に関連する最新の英文論文を検索に	についての	レポート作成・討	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 講 S G S G S G	去 義 え D D D	木材材木材料
2 3 4 5 6 7	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「公学場の習文文	衆衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 を読み、内容についての討議	についてのし、選択・言	レポート作成・討計	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 講 S G S G S G	去 義 之 D D D D U	木木木村村川川
2 3 4 5 6 7 8	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「公・安・環・子・論・論・学・論・論・学・論・論・学・論・論・学・論・論・学・記・学・会・学・会・学・会・学・会・学・会・会・会・会・会・会・会・会・会	衆衛生学」概論 学的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 学主題に関連する最新の英文論文を検索に を読み、内容についての討議 で読み内容についての討議	についてのし、選択・言	レポート作成・討計	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方法 講 ま S G S G S G S G	去義 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	木木木木黒黒黒
2 3 4 5 6 7 8 9	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「変環そ学論論学論	で衛生学」概論であります。 での手法である。 での手法である。 での発表・討議できる。 では、対象に関連する最新の英文論文を検索に でき読み、内容についての討議でき読み内容についての討議でき続み、内容についての討議できた。 できたの内容についての討議できた。	についてのし、選択・言	レポート作成・討計	議課題に基づいて 学	学習の主題を設定	方法 講 ま S G S G S G S G	去 義 D D D D D D D D D	木木木木黒黒黒黒
2 3 4 5 6 7 8 9	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「公安環を学論論学論論	で衛生学」概論 中的手法 である。生活習慣と疾病・感染症との関連は 意義の発表・討議 で主題に関連する最新の英文論文を検索は を読み、内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議 でき読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	義課題に基づいて 学	学習の主題を設定	方法 講 講 SG SG SG SG	去 義 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木木木木黒黒黒黒白
2 3 4 5 6 7 8 9 10	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「安環そ学論論学論論学	衆衛生学」概論 中的手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に意義の発表・討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 を読み、内容についての討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 を読み内容についての討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 「を読み内容についての討議 「主題に関連する最新の英文論文を検索」 「を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方 講 講 S G S G S G S G S G	去 義 。 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木木木木黑黑黑黑白白
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「安環そ学論論学論論学学	中の手法 を関・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 ・主題に関連する最新の英文論文を検索に を読み、内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・主題に関連する最新の英文論文を検索に ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方 講 講 S G S G S G S G S G S G	去 義 。 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木 木 木 黒 黒 黒 白 白 甲 村 村 村 村 川 川 川 川 崎 崎 斐
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	1)~4) 5)6) 7) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8) 1)~8)	「安環そ学論論学論論学学学	中の手法 要因・生活習慣と疾病・感染症との関連に 意義の発表・討議 ・主題に関連する最新の英文論文を検索に を読み、内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議 ・を読み内容についての討議	についてのし、選択・言	プレポート作成・討記 対議 対議	議課題に基づいて営	学習の主題を設定	方 講 講 S G S G S G S G S G S G S G	去 義 。 D D D D D D D D D D D D D D D D D D	木 木 木 黒 黒 黒 白 白 甲 甲 村 村 村 村 川 川 川 川 崎 崎 斐 斐

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

なし

	科目名		医療薬学基礎質	富習 Ⅱ			授業コード	220027BDP1	単位数		2 単位
新コ <u>ン</u>	当学科(学	(在)	医療薬学研究科				ナンバリング	2200273311	(時間数) AL 科目		(30)
HL =	薬) (今年度の担当者は授業計画に 記載)						必修	授業形態	So	 GD, 演習	
	記載)									養い	、病態
	学修目標		3) 在宅医療に	おいて、安全性にかた	いわる大きな問	問題点を挙げ、解決策、 問題点を挙げ、解決策、	手法、結果の	精査方法を討論	する。		
	務経験ので 員による教	-	科目担当者(比 た授業を行う。	佐・吉田)は、臨床現	場や研究機関	関での実務経験に基づ	さ、医楽品の安	全性を正しい評	r価法の修行	を目	的とし
į	評価方法		ポート、プロダク 明する。 基礎知識を含め	ト評価や口頭試問時 のて毎回の授業での疑	の理解度、摂 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	、学習の進捗状況を把 受業態度)の評点を 100 ば些細なことでも質問	%として単位認り	定を行う。評価の	の基準は授業		
	多上の注意			5 時間の学習を行う							
	フィスアワ 計画	<i>'</i> —	合担自教員の7	トフィスアワーと同じて	ごめる。						
回数	学修 目標 No.				授	岸内 容				· 業 i法	担当
1	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(1)。		演	習	吉田
2	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)。		演	習	吉田
3	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(3)。		演	習	鳥取部
4	1)	病院	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(4)。		演	習	鳥取部
5	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(1)。		演	習	松本
6	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)		演	習	松本
7	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(3)		演	習	白崎
8	2)	保険	薬局業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(4)		演	習	白崎
9	3)	在宅	医療業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(1)		演	習	木 村
10	3)	在宅	医療業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(2)		演	習	木 村
11	3)	在宅	医療業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(3)		演	習	甲斐
12	3)	在宅	医療業務におけ	る医薬品の安全性に	対する予測・	判断・評価を最適化で	きる(4)		演	習	甲斐
13	1, 2, 3)	薬剤	師業務において	医薬品の安全性に対	する予測・判	断・評価を最適化できる	3(1)		演	習	黒川
14	1, 2, 3)	薬剤	師業務において	医薬品の安全性に対	する予測・判	断・評価を最適化できる	3(2)		演	習	黒川
15	1, 2, 3)	薬剤	 師業務において	 医薬品の安全性に対	する予測・判	断・評価を最適化できる	<u></u>		演	習	黒川
教科	書(著者:	名)出	版社名【ISBN】	なし					•		

								1		兴儿米	0 #4	4 <i>1</i> -
	科目名		臨床薬学特論Ⅱ				授業コード	220029E	BDP1	単位数 (時間数)	2 単 (30	
配	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3年)				ナンハ゛リンク゛		Α	AL 科目	0)
	担当者		鈴木 彰人(薬・薬)、園田 純一郎 (薬・薬)、日高 宗明(薬・薬)	開講学期	2024 年 度	き前 期	必修·選択	選	択	受業形態	演習・	SGD
	类の概要・・ 票・対応す リシ−No.		チーム医療において、薬剤師には疾められる。すなわち、薬剤師は個々の務を担っている。 臨床薬学特論 II では、個々の患者にな目的とする。指導的立場に立ち医療を科学的根拠に基づいて評価する能法、また臨床試験実施のための試験	の患者の薬物 おける治療療 療により貢献 力を身に付い 計画法などを	療法の問題を 効果を科学的なできる薬剤師した、治療の有效 ・修得する。	把握し、 根拠に基 になるたる 効性や有質	医薬品情報を聞 づいて予測、評 かに、症例の提 害性の科学的記	語床応用してでいる。 価そしてでいたがしています。 示に対しています。 平価法、薬	ンて薬学的 判断でき て患者の	的提案を行る能力を培 る能力を培)病態および	うという うことを 「薬物治	5任 を主 台療
	学修目標		1) 臨床検査値、検査所見、理学所見 2) TDM が必要な医薬品について、血 3) 薬物動態に影響を及ぼす要因を 4) 症例に対して科学的根拠に基づし 5)薬物治療におけるファーマコビジラ 6) 薬物療法または栄養治療における	1中濃度の解 列挙し、それ! いた最適な治 シスの意義を	析および処方 こついて説明で 療法の提案が E説明できる。	設計がて できる。 「できる。	きる。					
	務経験のな 員による教											
	評価方法		学習への取り組み姿勢(授業での積 (50点)により総合的に評価して点数			など:50 点	5)および授業後	後の簡単な	は回頭試	問またはレ	ポートロ	内容
	準備学習 多上の注意		授業時間外に 15 時間の学習を行う	_ك。								
オ	フィスアワ	·—	在室時適宜									
授業	計画											
回 数	学修 目標 No.			授	集内容					授業 方法		担当
	目標	症例	提示(1):患者の臨床状態の問題点を			0					ţ ¹	担当
数	目標 No.		提示(1):患者の臨床状態の問題点を 提示(1):患者の臨床状態に対する問題	挙げ、その対	策を提案する					方法	t ¹¹ GD 鈴	
数 1	目標 No. 1)4)	症例		挙げ、その対題解決策の是	策を提案する	5.	0			方法 演習·SG	t ¹¹ GD 鈴	市
数 1 2	目標 No. 1)4) 1)4)	症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ	策を提案する 登非を討議する いて提案し、	お議する	0			方法 演習·SG 演習·SG	SD 鈴GD 鈴	市大
数 1 2 3	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4)	症例 症例 症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対	策を提案する 連非を討議する いて提案し、 策を提案する	る。 討議する 。				方法 演習·S(演習·S(SD 鈴GD 鈴GD 鈴	市木
数 1 2 3 4	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4)	症例 症例 症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対 題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 「し、投与プラ	る。 討議する 。 ンを立案				方法 演習·SG 演習·SG 演習·SG	E HI GOD 鈴GD 鈴GD 鈴GD 鈴	。 計 木 計 木 計 木
数 1 2 3 4 5	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)	症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動	挙げ、その対題解決策の見 の評価法につ 挙げ、その対 態学的に解析 当性を論文に	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 「し、投与プラ」 基づいて討議	る。 討議する 。 ンを立案 はする。				方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	E THE STATE OF STATE	; 木 ; 木 ; 木
数 1 2 3 4 5	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6)	症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ挙げ、その対態学的に解析当性を論文に	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 「し、投与プラ」 基づいて討議 策を提案する。	る。 討議する 。 ンを立案 はする。				方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	E THE SECOND SE	。 木 。 木 。 木 。 木 。 木
数 1 2 3 4 5 6 7	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4)	症例症例症例症例症例	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を	挙げ、その対題解決策の是 理解決策の対象学が、その対象学的に解析 当性を論文に 挙げ、その対象	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 「し、投与プラ」 基づいて討議 策を提案する。	る。 討議する 。 ンを立案 。 。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	E THE STATE OF STATE	(1) (2) (3) (3) (4) (3) (5) (4) (6) (4) (7) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (8) (4) (9) (4) (10) (4) <t< td=""></t<>
数 1 2 3 4 5 6 7 8	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5)	症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決	挙げ、その対題解決策の見の評価法につ挙げ、その対態学的に解析当性を論文に挙げ、その対策の是非を記しまる。	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 行し、投与プラ 基づいて討議 策を提案する。 議する。	る。 討議する。 ンを立案 する。 案し、討詞	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	E THE STATE OF TH	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5)	症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):医薬品の使用実態データ等を	挙げ、その対題解決策の見の評価法につ挙げ、その対態学的に解析当性を論文に挙げ、その対策をした。	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 行し、投与プラ 基づいて討議 策を提案する。 議する。 は治療法を提 策を提案する	る。 討議する。 ンを立案 する。 案し、討調	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9	目標 No. 1)4) 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4) 6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4)	症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):患者治療における問題解決等	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ挙げ、その対態学的に解析当性を論文に挙げ、その対策をもとに最適なが、その対策をもとに最適ながある。	策を提案する 計を討議する いて提案し、 策を提案する 行し、投与プラ 基づいて討議 策を提案する。 議する。 は治療法を提 策を提案する。 は治療法を提 策を提案する。	る。 討議する。 ンを立案 する。 案し、討詞。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	# ### ### ### ### ### ### ### ### #### ####	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	目標 No. 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6)	症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(3):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問題	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ対しました。 対し、その対し、というが、というでは、その対し、というでは、その対し、その対し、その対し、その対し、その対し、その対し、その対し、そのの是の対し、そのの是の対し、そののを提供がある。	策を提案するとは案するとは案するとは案するのでは、数を提案するのでは、数を提案するのは、数を提案する。は治療法を提案する。は治療法を提案する。は治療法を提案する。は治療法を提案する。は治療法を提案する。	る。 討議する。 ンを立案 する。 案し、討語 。 る。	する。			方法 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC 演習·SC	A STATE OF	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	目標 No. 1)4) 1)4)6) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4) 2)3)4)6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6) 4)6) 4)6)	症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):治療薬の血中濃度を薬物動 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 提示(3):患者治療における問題点を 提示(3):患者治療における問題解決等 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問題 提示(4):患者の臨床状態に対する問題 提示(4):科学的根拠に基づいて最適	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ挙げ、その対態学的に解析を対した。 を対し、その対策を対している。 などは、その対策をもとに最適なができませば、その対象をはないができません。 をもとによるの対象をはなるができませば、その対象は、その対象によるの対象には、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、そのは、その	策を提案すると非を討議するのいで、表を提案し、策を提案し、策を提案するので、基本では、対いて、まするのは、治療を提案する。とは、策を提案は、対策を提案は、対策を提案は、対策を提案は、対策を提案は、対策を提案は、対策を提案には、対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対策を対	る。 討議する。 ンを立案 する。 条し、討論 る。	する。			方法 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC 演習・SC	E ST	
数 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	目標 No. 1)4) 1)4)6) 1)3)4) 1)~4)6) 1)3)4) 6) 1)4) 4)5) 4)5)6) 1)4) 3)4)6) 1)4) 4)6) 1)4)	症症症症症症症症症症症症症症	提示(1):患者の臨床状態に対する問題 提示(1):栄養療法における治療効果の 提示(2):患者の臨床状態の問題点を 提示(2):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):患者個別の投与プランの妥当 提示(3):薬物療法における問題点を 関提示(3):患者治療における問題解決 提示(3):患者治療における問題解決 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態の問題点を 提示(4):患者の臨床状態に対する問題 提示(4):患者の臨床状態に対する問題 提示(4):患者の臨床状態に対する問題 以表示(4):患者の臨床状態に対する問題 以表示(4):患者の臨床状態の問題点を	挙げ、その対題解決策の是の評価法につ挙げ、その対態学的に解析を対した。 を対し、その対策を対している。 を対け、その対策を対している。 をもとに、その対策を対している。 をもとに、その対策を対している。 をもとに、その対策を対している。 をもとに、その対策を対している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を対策を表している。 を、ましている。 を、。 を、を、を、。 を、を、を、。 を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、を、	策を提案すると非を討議するのいで、策を提案するのので、を提案するので、基本を提集を対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、	る。 討議する。 ンを立案 する。 案し、討議。 る。 。 し、討議・	する。			方法 演習 · SC 演習 · SC	E 11 GO 60 GO	木木木木木木田田田田田田高

なし

参考書(著者名)出版社名【ISBN】

	科目名		フィジカルアセスメント特論	授業コード	220030BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配当	当学科(学	年)	医療薬学研究科(1・2・3年)	ナンハ゛リンク゛		AL 科目	0
	担当者		高村徳人(薬·薬)、徳永仁(薬· 薬)、緒方賢次(薬·薬)、興梠靖幸 開講学期 2024 年 度 前 (薬·薬)、戸井田達典(薬・薬)		選択	授業形態	講義、実習、SGD
	きの概要・・ ・対応する リシーNo.		これからの薬剤師業務においては、治療薬の有効性の予測、評価、バイタルサインなどの生体反応を正確に把握できるフィジカルアセス論では、薬物による生体反応を把握する技術とその理論および薬物床の場において治療薬の有効性の予測、評価、判断能力を培うことを用い薬物投与による病態変化を再現しながら、それらの病態から薬物投与を行うには吸収、分布、代謝、排泄を考慮する必要があるは標的組織への薬物移行量を反映し効果に直結するため、それらを	メント技術の習得が 生体内分布とその を目的とする。具体 変物の有効性を把持 が、なかでも、タン 予測、評価そしても	が不可欠である。 効果について学 が的には、種々の 握させる能力を パク結合が大き	。フィジカルア・ なび、ベッドサィ)高性能生体シ 修得させる。さ きく関与する薬	セスメント特 (ドを含む臨 ノミュレータ らに、有効 ・物の分布
	学修目標		1) 循環器、呼吸器、感覚に関するフィジカルアセスメントを概説できる 2) 種々の心音や呼吸音について心臓や肺の機能・器質から理論的 3) 薬剤性アナフィラキシー、高カリウム血症、高血糖などの病態変化治療の有効性を概説できる。 4) 血清タンパク質や膜輸送タンパク質の生体内分布について説明で 5) 血清タンパクの結合サイトの結合能の経時的変化から薬物の移行 6) 疼痛患者のバイタルサインや臨床検査値から、適切な鎮痛薬を選 7) フィジカルアセスメントと生体内分布の関係から薬物の効果を改善 8) ガン疼痛緩和の方法を提示できる。 9) 腎障害及れる薬剤は大きながありませる。	こ説明できる。 にを再現した高性能 できる。 行性を推測できる。 訳し効果的な投与 でする方法を討議し	5法を提示できる。 説明できる。	5.	
	务経験のな 員による教		実務経験のある薬剤師と医師が担当し、臨床に役立つ業務や工夫によび演習を行う。	こついて思考する前	も力を養うことを	目的として講	、SGD お
	評価方法		毎時間質問することにより学習成果のフィードバックを行う。レポート 位認定を行う。	80%)、口頭試験	(10%)、プレゼン	ンテーション(1	0%)で単
	準備学習・ 多上の注意		授業時間外に 15 時間の学習を行うこと。				
オ	フィスアワ	_	講義の前後に講義した場所で行う。				
授業	計画					-	
回 数	学修 目標 No.		授 業 内 容			授美 方法	去 担ヨ
1	1)		器、呼吸器、感覚のフィジカルアセスメントを確認し、理解する。				義を施み
2	2)	種々	の心音や呼吸音を体験し心臓や肺の状態を理解する。			実	習 徳・永
3	3)		性アナフィラキシーなどを体験し病態と治療法を理解する。 			実	習 徳・永
4	4)		fタンパク質や膜輸送タンパク質の生体内分布の差異を調べ、理解する) ₀		講	
5	4)5)	血清	fタンパク結合能の経時的変化と薬物移行性について調べ、理解する。 			講	義 髙村
6	6)	疼痛	らいバイタルサイン変化と臨床検査値変化の関係を調べ、理解する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			講	義 髙 村
7	4)~8)	学習	主題に関連する最新の英文論文を検索し、選択して討議する。			S G	D 緒方
8	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 緒方
9	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 緒方
10	4)~8)	学習	の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。。			S G	D 興 梠
11	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 興 梠
12	4)~8)	論文	を読み内容について討議する。			S G	D 興 梠
13	6)~9)	学習	の主題との関連から、論文の内容を要約し、発表して討議する。			S G	D 戸井田
14	6)~9)	学習	の主題についてレポートを作成して討議する。			S G	D 戸井田
15	6)~9)	学習	の主題について発表し、討議する。			S G	D 戸井田
教科	書(著者:	名)出	版社名【ISBN】 使用しない。				
参考	書(著者:	名)出	版社名【ISBN】 必要に応じレジュメを配布。 薬のうごきを「みえる化」する:一目で伝わる ADME		村が担当の時は	— <u>—</u> 5用	

	科目名	医療薬学	基礎演習Ⅲ			授業コード	220032BDP1	単位数 (時間数)	2 単位 (30)
配	当学科(学	生年) 医療薬学	研究科(2•3年)			ナンハ゛リンク゛		AL 科目	0
	担当者	薬)、黒川 (薬・薬)、 高宗明(薬 薬)、戸井	・薬)、高村徳人(薬・ 昌彦(薬・薬)、鈴木彰人 園田純一郎(薬・薬)、日 ・薬)、緒方賢次(薬・ 田達典(薬・薬)	開講学期	2024 年 度 後 其		必修	授業形態	SGD, 演習
	きの概要・・ 票・対応す リシ−No.	一般 るポ	基礎演習Ⅲでは、これまで 舌用できることを目的として こいく能力の向上を目指す。 R険薬局、在宅医療の場に 客観的に評価し総括する能 こ取り組む姿勢を持つととも 局において、レギュラトリー	いる。即ち、 。具体的には おいて、問題 力を修得する らに、次世代を	薬剤師業務の中で、 、医療現場での種々 点を抽出し検討課題 る。これらの修得によ を担う人材の養成を行	ンギュラトリーサッ の設定における: を設定でき、課題 り、自己研鑽に努 テい、薬学・医療の	イエンスの有効か シミュレーション 夏遂行の手法を みめ、問題点やそ の進歩と改善に	生の概念に基 を演習形式で 選択し実施す t会的動向を	づき業務を 体験し、病 る能力、検 把握し、解
	学修目標	2) 保険薬 3) 在宅医	局において、レギュラトリー 療において、レギュラトリー	-サイエンス <i>σ</i> -サイエンス <i>σ</i>)有効性の概念に基 [・])有効性の概念に基 [・]	づき業務を最適化 づき業務を最適化	とできる。 とできる。		
	務経験ので 員による教	かる ンをとりな	の多くは医療現場での勤務 がら実務経験を積んでいる ができ、その経験を生かし	。このため、	患者・来局者、他の図				
	評価方法	学習への正と	取り組みの姿勢〔課題の提	出状況, 出席	[状況, 授業態度](糸	50 点)、口頭発	表(約50点)を	総括的に評価	し、60 点じ
	準備学習 多上の注意	毎回の授 毎回の授 問題に関係	でたりる。 業の前後、週末および長期 系する医薬品については、 レてロールプレイを行うこと	あらかじめ添					
オ	フィスアワ		~金曜日 各教員が示して		アワーに準じる。				
	学修 学修								
回数	目標 No.			授 美	美内容			授 方 方 2	
1	1)	病院薬局業務に	おける医薬品の有効性の	予測ができる	0.				習鈴木
2	1)	病院薬局業務に	おける医薬品の有効性の	評価ができる) ₀			演	習 鈴 木
3	1)	病院薬局業務に	おける医薬品の有効性の	判断ができる	00			演	習 日 高
4	1)	病院薬局業務に	おける医薬品の有効性の	最適化ができ	きる。			演	習日高
5	1)	病院薬局業務に	おける医薬品の有効性を	総合的に討論	養する。			S G	D 戸井田
6	2)	保険薬局業務に	おける医薬品の有効性の	予測ができる	00			演	習徳永
7	2)	保険薬局業務に	おける医薬品の有効性の	評価ができる	D _o			演	習徳永
8	2)	保険薬局業務に	おける医薬品の有効性の	—— <u>———</u> 判断ができる) _o			演	習園田
9	2)	保険薬局業務に	おける医薬品の有効性の	最適化ができ	きる。			演	習園田
10	2)	保険薬局業務に	おける医薬品の有効性を	総合的に討論	養する。			S G	D 黒川
11	3)	在宅医療業務に	おける医薬品の有効性の	予測ができる	000			演	習 髙 村
12	3)	在宅医療業務に	おける医薬品の有効性の	 評価ができる	00			演	習高村
13	3)	在宅医療業務に	おける医薬品の有効性の	判断ができる	00			演	習 緒 方
14	3)	在宅医療業務に	おける医薬品の有効性の	最適化ができ				演	習緒方
15	3)	在宅医療業務に	おける医薬品の有効性を	総合的に討論	 養する。			S G	D 戸井田
教科	書(著者	名)出版社名【ISB	N】 使用しない					•	
参考	書(著者	名)出版社名【ISB	N】 必要に応じレジュメ	 を配布。					